様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３２６８９
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2014～2015
課題番号：２６８８５０９６

研究課題名（和文）独裁国家における党組織・選挙制度の競争性の高低が体制の存続・崩壊に及ぼす影響

研究課題名（英文）Intra and inter-party Competition and the Durability of Authoritarian Regimes

研究代表者
豊田　紳（Toyoda, Shin）

早稲田大学・政治経済学術院・助手

研究者番号：２０６３６１２０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,100,000円

研究成果の概要（和文）：冷戦期の非民主主義体制の主流は一党独裁体制であったが、冷戦後の世界では、政府＝与党に選挙で勝利することが極めて困難であるにもかかわらず、公式制度の上では野党が許容され、与野党間で定期的に競争選挙が行われる選挙権威主義体制が独裁体制の下位類型として主流となった。
しかし、既存研究は一党独裁体制と選挙権威主義体制とを理論的に区別しておらず、従って選挙権威主義体制に時に存在する「組織化された野党」を分析できないという問題があった。本研究は、一党独裁体制と選挙権威主義体制を区別した上で、選挙権威主義体制にのみ存在する組織化された野党の意義を理論化した。

研究成果の概要（英文）：While during the Cold War period, the majority of non-democratic regimes adopted single-party systems, since the fall of communist regimes in Eastern Europe and Russia, dictators in hitherto single party regimes transform itself to what scholars call "electoral authoritarian regimes", where regular, competitive but unfair elections between ex-ruling single parties with newly emerged opposition becomes norm. For all recent development about the effect of political institutions, such as legislatures, parties and elections, in the dictatorships, scholars failed to develop a theory to explain why such shifts occurred, mainly because, previous works did not have a theoretical distinction between single party regimes and electoral authoritarian regimes. More specifically, what kind of benefits (and risks) do dictators gain and incur by having multiparty competitive but unfair elections? My research answered this question.

研究分野：比較政治学

キーワード：独裁体制　民主化　政治体制変動　政党システム

１．研究開始当初の背景

冷戦期においては、世界各国で支配的な非民主主義体制（以下、独裁体制と呼ぶ）の下位類型は、一党独裁体制であった。しかし、冷戦の終結とともに、独裁体制の下位類型として主流となったのは、政府＝与党に選挙で勝利することが極めて困難であるにもかかわらず、公式制度の上では野党が許容され、与野党間で定期的に競争選挙が行われる選挙権威主義体制へと変化した。

このような変化と軌を一にして、比較政治学者たちは、独裁体制における様々な政治制度（議会・選挙・政党など）の効果に関する理論・実証研究を発展させるようになった。

しかし、既存研究には３つの問題があった。第１に、一党独裁体制と選挙権威主義体制とを理論的に区別していない。従って、一党独裁体制には存在しないが、選挙権威主義体制には存在する「野党」および弱小な野党と圧倒的な権威主義的政府＝与党間に存在する「政党システム」という政治制度の意義について分析できないという問題があった。

第２に、先行研究は、一党独裁体制／選挙権威主義体制における支配政党内部の党内競争性の問題を分析できないという欠点があった。すなわち、一党独裁／選挙権威主義体制において、統治に携わる「支配政党」内で、党役職者ポストおよび党内予備選挙という形で競争選挙が行われることがあるが、こうした支配政党内での党内競争選挙が、いかなる効果をもつのかという点について、先行研究はおおむね沈黙してきた。

第３に、「党間競争性」および「党内競争性」の相互作用が、独裁体制の存続・崩壊に及ぼす影響は分析されてこなかった。党間競争性とは、支配政党と野党間での選挙競争性のことであるが、これは一党独裁体制においては存在せず、野党が存在する選挙権威主義体制においてのみ存在する。また、選挙権威主義体制においても、選挙制度その他の要因によって、支配政党と野党の間での競争性の高さが決定される。また、党間競争性とは別に、党内役職者選出制度や予備選挙制度の有無によって、支配政党内での党内競争性が決まってくる。ということはつまり、独裁国家においては、政治制度のデザインによって、党間競争性と党内競争性という２つのレベルが存在し、相互作用する筈である。しかし、先行研究はこの相互作用を分析するための枠組みを発展させてこなかった。

このような研究状況に鑑み、本研究プロジェクトの目的を、「独裁体制における党組織・選挙制度の競争性の高低が体制の存続・崩壊に及ぼす影響」を明らかにすることに設定した。

２．研究の目的

研究の目的は、第１に、理論構築、第２に事例分析、そして第３に国家間ラージ N 統計分析による理論の検証である。

第１の理論構築は、前述の３つの問題を解決することを目的とする。より具体的には、以下の３つの問いを統一的に扱う理論を構築する。すなわち、

①独裁体制において、弱小な野党と圧倒的な支配政党の間で競争選挙を行うことの意義とは何か。

②支配党内部での競争性の高さは、支配党の組織にどのような影響をおよぼすのか。

③野党と与党間での党間競争が存在する選挙権威主義体制において、また野党が存在しない一党独裁体制において、支配党内部での競争性の高さはどのような効果をもつか。逆に、支配党内部での競争性の高さは、選挙権威主義体制における党間競争にいかなる影響をおよぼすのか。

第２の事例分析は、理論から導かれた／理論構築にあたって、理論の一見したところの妥当性を示すための質的分析である。

第３に、上記①②③の条件を満たす理論を構築した後、理論から導かれた含意を、事例分析および国家間ラージ N 統計分析によって検証する。新規にデータセットを構築する。

３．研究の方法

第１の研究目的である理論構築は、第２の研究目的である事例分析と密接に関連している。理論は演繹的に構築するものであるが、演繹にあたっては経験的な事実に依拠する必要があるからである。

従って、実際の研究は第２の研究目的である事例分析から開始した。理論構築にあたって依拠した事例は、共産党一党独裁体制のソ連と、制度的革命党による支配下にあったメキシコの２カ国である。

この２カ国を事例分析の対象としたのは、共産党一党独裁体制であったソ連と、事実上の一党独裁体制から選挙権威主義体制へと移行したメキシコには、以下のような４つの好都合な条件があったからである。第１に、ソ連とメキシコは共に、長期間にわたって持続した政党独裁国家の典型である。すなわち、ソ連は 1919 年から 1991 年まで、メキシコは 1929 年から 2000 年まで、政権を担った。こ

のように長期間にわたって支配を維持した体制は、事例分析を行うのに適している。かつ、両国は一党独裁体制と選挙権威主義体制という制度類型を開発・発展させたパイオニアだった。ソ連は、一党独裁体制の理念型である。他方でメキシコは、一党独裁体制に近い体制から出発し、何度も事実上の一党独裁体制に接近したにもかかわらず、度重なる選挙制度改革を通じて、選挙権威主義体制という独裁体制の類型を開発した。

第２に、前述した長期支配という共通点にもかかわらず、ソ連とメキシコは、置かれたコンテクストが大きく異なっている。ソ連は、一党独裁体制＋現存した社会主義という政治経済体制を確立した歴史上、はじめての事例であり、国際政治の主要なプレイヤーであった。他方で、メキシコは、ラテンアメリカに位置し、かつ共産主義体制ではなかった上、国際政治においてはマージナルな存在であった。文化の違いについては、言うまでもないだろう。

第３に、上述の差異にもかわらず、ソ連とメキシコには一定の構造的類似がある。特に、19 世紀半ば以降、一次産品の輸出に特化して工業化を推進し、20 世紀の初頭に巨大な社会革命を経験し、既存の社会構造が破壊されたこと。ソ連は言うに及ばず、メキシコでも国家が経済活動に大きな統制を加えたことなどである。２０世紀半ばにおいて、植民地から独立したアジアとアフリカの新興国家の多くが、同様の経緯をたどって独裁化したことを鑑みれば、ソ連とメキシコの構造条件は、他の独裁国家にも適用可能な範例を提示する可能性がある。

第４に、両国については豊富な研究の蓄積があり、かつ近年になってともに崩壊した結果、党内事情に関する大量の一次資料が利用可能になったことも大きい。ソ連は、冷戦期の主要な登場人物であるから、英語・日本語において詳しく研究されてきたし、ゴルバチョフ期のペレストロイカ以降、大量の内部資料が公開されるようになった。しかも、これらの資料は、日本語・英語でアクセス可能であった。メキシコについても、隣国アメリカの研究者（政治学者・経済学者・人類学者）が多くのすぐれた研究を発表してきた。また、スペイン語の一次資料が公開されるようになった。これらは偶発的な事情であるが、実際に党組織と選挙制度（党内・党間）の相互作用を分析する上で、なくてはならない条件であった。実際、従来の独裁体制研究が皮相的な段階にとどまっていたのは、もっぱらこうした実際の資料へのアクセスが困難であったためだと思われる。

そこで、２カ国の全期間にわたる資料を一次文献・二次文献を問わず収集し、それらの資料にもとづいて、前述した①②③の３つの課題を満足させる理論構築に取り組んだ。

当初、予定していた多国間ラージ N 統計分析にあたって必要なデータセットの構築作業は、理論構築および事例研究を通じて、体系的な質問リストを構築してから後に取り組むこととした。

４．研究成果

ソ連とメキシコの歴史的事例分析に依拠した理論構築作業は、大きな成果を上げた。得られた知見は、以下のようにまとめることができる。

ア．一党独裁は、独裁者が党エリートの人事権を独占するがために安定するが、党エリートには一般大衆の利益となる行動を取る誘引がなくなり、一般大衆に不満が蓄積する（1920 年代のソ連におけるスターリンの台頭および 1940 年代以降の制度的革命党の一党支配の確立）。

これは独裁者の支配を危険にさらすため、大衆の蜂起を抑制するために軍・秘密警察をはじめとする治安機関を通じて、大衆を弾圧する必要が生じる。だが、治安機関への依存を深めると、独裁者は治安機関の傀儡になる危険がある。

イ．しかし、党エリートに対し、大衆への利益配分を強制する効果をもつ競争選挙を実施すれば、独裁者は人事権を通じた党エリートに対する支配権を失う。党エリートは、大衆の票を獲得すれば、自身の地位を維持できるのであり、独裁者の裁可を必要としなくならからである。

ここから、一党独裁体制における党内競争性の上昇は、党組織の崩壊ひいては体制の破綻を招きうることがわかる。ソ連におけるゴルバチョフのペレストロイカや、メキシコにおける 1960 年代の改革は、このケースに当てはまる。組織化された野党が存在しない場合、独裁者は、党エリートに対して、党上位者への服従と大衆への利益配分を両立させることはできない。

ウ．他方で、組織化された野党が与党に選挙で挑戦する場合、独裁者は候補者指名権限を通じて党エリートに対する人事権を保持した上で、与野党間競争選挙は党エリートに大衆への利益配分を強制することができる。

エ．しかし、選挙権威主義体制にもトレードオフがある。組織化された野党が選挙で与党に挑戦する以上、野党が勢力を伸長する可能性が高いのである。従って、支配政党は選挙で敗北してしまうかもしれない。

ただし、支配政党および野党陣営のいずれも、党執行部が党内の陣笠議員に対して党規律を維持することができる。そして、与野党間で党規律が維持されていると、政権交代後に相互の死活的利益を保護する「協定」を締結するのが容易になるため、民主化を達成するのが容易になるのは、1980-90 年代に一世を風靡したアクター中心民主化研究の知見が明らかにしている通りである。

以上の成果の一部は、すでに豊田(2014, 2015a)において発表した。これらの論文では、メキシコの独裁者層が、それまで弱体で内部分裂に引き裂かれていた野党組織を強化する諸制度改革を実施した結果、メキシコの野党「国民行動党」の党執行部に権限が集中したこと、メキシコの民主化にとって組織化された野党が存在したことが決定的な役割をもったことを論証した。

また、ソ連とメキシコの歴史的経緯に依拠して、上述の理論を提示するために、2016 年度１０月１日－２日に、立命館大学（大阪いばらきキャンパス）にて開催される日本政治学会で発表する。

次の課題は、以上の理論を検証するための体系的なデータセット構築である。データセット構築については、理論の大枠が完成した 2015 年度半ばから本格的に着手している。

現在は多国間比較にあたっての予備調査、データ・ソースの確認およびコードブックの作成作業に従事している。

世界各国の文民独裁体制を対象に、党組織および選挙制度に基づく包括的データセットとなる予定であるが、残念ながら事業年度中には完成には至らなかった。

作業は継続中であり、2017 年度中の完成を見込んでいる。当該データセットは、中長期的には、独裁体制の存続／崩壊だけではなく、民主化研究・政党システム研究にも利用可能な、幅広いインプリケーションを持つデータとなるはずである。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

豊田紳(2015a)「覇権政党支配下メキシコにおける忠誠野党・国民行動党の誕生、1965-1988」『ラテンアメリカ論集』第 49 号, 1-20, 2015.

〔学会発表〕（計３件）

豊田紳(2015b)「覇権政党の盛衰と、各級候補者選出制度の変遷：メキシコ・制度的革命党を事例として」日本比較政治学会報告、於上智大学 2015 年 6 月 27-28 日.

Shin Toyoda,(2015c)“Why Did Mexican PRI Survive the Democratic Transitions? An Institutional Explanation,” Paper Presented for Latin American Studies Association Congress in San Juan, Puerto Rico, 27th to 30th of May ,2015.

豊田紳(2014)「覇権支配下メキシコにおける忠誠野党国民行動党と民主化、1965-1988」ラテンアメリカ政経学会、於神戸大学、2014 年 11 月 15 日-16 日。

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
特になし
（ホームページ作成準備中）

６．研究組織
(1)研究代表者
豊田　紳（Shin, Toyoda　　）
早稲田大学政治経済学部助手
研究者番号：20636120

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：